

## 2011 年度春号 研究室便り

研究室だより

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会員の皆様に、2010 年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

まずは研究室の授業内容について報告いたします。研究室の専任教員である神寶秀夫教授（ドイツ中・近世史）、山内昭人教授（インタナショナル史）、岡崎敦准教授（フランス中世史）の三名の教員が、各学生の多様な関心に応じた指導に尽力されています。また非常勤講師として、2010 年度から九州工業大学の水井万里子先生（近世イングランド史）、および別府大学の池口守先生（古代ローマ史）にご出講を頂いております。2010 年 7 月には集中講義として、東京大学から姫岡とし子先生（ドイツ近・現代史）をお招きしました。

次に研究室のメンバーの動きについて紹介いたします。2010 年 4 月には新たに二年生の久保翔平くん、竹田吉寛くんの 2 名が研究室の一員として加わり、大学院修士課程には高津智子さんが進学しました。よって 2010 年度の研究室の構成員は、学部生 15 人、院生 5 人の計 20 人となりました。2010 年度は研究室運営の主力である 2 年生、3 年生が全て男子学生という、従来の西洋史学研究室の傾向と比べると珍しい状況になりましたが、この統一感を活かし、研究室運営や行事・勉学においてもチームワークが発揮された一年となりました。

大学院においては修士 1 年の高津智子さんが早くも欧州統合史をテーマとした論文を執筆し、12 月には九州史学会西洋史部会での報告を終えました。修士 2 年生の酒井沙織さんは、教育実習などの忙しい日程をこなしながら、宗教改革期イングランドの民衆宗教をテーマに修士論文を作成し、2011 年 1 月に提出しました。また博士後期課程では、博士 3 年の大浜聖香子（フランス中世史）が今年 5 月に日本西洋史学会において報告を行い、現在は目下、論文の作成に勤しんでいます。同じく博士 3 年の法花津晃さん（フランス中世史）は昨年 12 月の九州史学会での報告を終え、論文執筆や研究に励んでおり、2011 年夏からはフランスへの留学に出発します。また博士 3 年の岡部直樹さん（バルカン現代史）も同様に昨年 12 月の九州史学会で報告を行いました。最後に喜ばしいニュースとして、西洋史学研究室の卒業生で、ミュンヘン大学にて研究を続けていた大場はるかさん（ドイツ近世史）が、今年ミュンヘン大学において学位を取得しましたことを報告させていただきます。

研究室の年中行事としては、4 月「進学式（専門分野決定式）」、「進学生歓迎コンパ」、5 月、11 月に「卒論構想発表会」、夏休みに「オープンキャンパス」と「合宿旅行」、9 月「進学ガイダンス」、2 月「追い出しコンパ」が行われました。これらの行事は学部 3 年生を中心に他学年の学生や院生が一致団結して行っており、研究室の伝統の継承や連帯感の醸造につながっております。

本研究室主催の学会・研究会関係では、3月と10月に九州西洋史学会、12月に九州史学会西洋史部会が例年通り開催されました。また科学研究費の助成を受けている「西欧中世史料論研究会」を7月と9月に行いました。その他ラテン語読書会として「タキトゥスの会」も毎月一回行われており、本年度も多様な学問的催しの場として本研究室が機能しております。このように西洋史学研究室は、九州における西洋史学研究ならびに国際的学術交流の拠点として、周辺の大学や研究教育機関と連携しつつ、研究教育・社会活動を推進しております。

最後に2011年度の新研究室体制についてお知らせいたします。2011年4月には新2年生として赤塚翼くん、仁階堂翔太くん、松木美加さんの3人を迎えました。そして修士1年生には陣内力くん、竹之内理沙さんが進学し、外部大学から白浜充くんを迎え、学部生12人、院生6人の計18人となりました。構成員の刷新と新しい風を迎え、新たなスタートを切った西洋史学研究室のますますの躍進が期待されます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(文責 大浜聖香子)

#### 【会員近著紹介】

山内昭人『初期コミンテルンと在外日本人社会主義者 ―越境するネットワーク』、ミネルヴァ書房、2009年11月。

神寶秀夫『中・近世ドイツ都市の統治構造と変質 ―帝国自由都市から領邦都市へ』、創文社、2010年2月。

正本忍(共著)『歴史と軍隊 ―軍事史の新しい地平』、創元社、2010年10月。